

実装に向けた先進的技術やデータを活用したスマートシティの実証調査(その4)(Uスマート推進協議会)

■都市課題

- ① 中心市街地の「賑わい」の広がり
- ② 局所的な「密」の回避
⇒ICTを活用した「賑わい」をコントロールできる方策の構築

■解決方策

- ① デジタルサイネージを活用した即時即応型サービスの提供
- ② 混雑マップ提供による利便性向上と密回避を支援

■KPI

- ① クーポン利用による店舗利用決定率
- ② 混雑情報の閲覧数
⇒これらにより「賑わい」のコントロール方策としての可能性を評価

■実証実験の概要・目的

⇒デジタルサイネージを活用し、地域単位での「店舗の混雑情報」と「リアルタイムクーポン」を組み合わせた回遊利便性向上策の効果検証
⇒AIカメラシステム・Wi-Fiで取得した人流データを活用したリアルタイムの混雑可視化による「密」回避誘導策の効果検証

■実証実験の内容

① デジタルサイネージを活用したリアルタイムサービスの提供

市民に混雑を避けながら飲食を楽しんでもらうとともに、店舗側も混雑を回避できるような、店舗側で混雑情報をリアルタイムに入力し、デジタルサイネージ等で発信する仕組みを構築。店舗が混雑していない場合は、クーポンを発行することができ、市民を誘導できる仕組みとした。



市民はタッチパネルを操作し、店舗情報や地図を確認、スマホでクーポンを取得できる

デジタルサイネージ等で店舗ごとの混雑状況や、クーポン発行の情報を表示

② 混雑マップ提供による利便性向上と密回避を支援

市民が宇都宮市中心市街地の混雑状況を一目で把握し、混雑を避けた回遊を可能とするため、AIカメラシステム・Wi-Fiのセンシングによる収集した人流データをリアルタイムで情報発信できる仕組みを構築。
WEBや中心市街地に設置したデジタルサイネージから情報発信することで、密回避を支援する仕組みとした。



■実証実験で得られた成果・知見

① 混雑情報とクーポンがお店選びの「基準」となったことを確認

⇒クーポン利用者へのアンケートから約9割の方が「混雑情報」と「クーポン」がお店を選ぶ際の基準になったと回答
⇒このことから、一定の賑わいの広がり、誘導効果の可能性を確認
⇒そのほか、実証実験協力店舗からは、店内の状況をリアルタイムで伝えることができる点などが高く評価されており、今後の実装に向けた可能性も確認
※新型コロナウイルス感染症の影響から十分なサンプル数が確保できなかったため、傾向として効果を評価

② 市民の混雑マップへの高い関心を確認

⇒混雑マップ公開後、一日約1,000件を超えるHPへのアクセスを記録
⇒コロナ禍において、多くの人が混雑状況を気にしながら外出していることを確認(混雑回避支援策としての可能性を確認)
⇒中心市街地の店舗等から、今回取得した人流データが単なる混雑状況にとどまらずマーケティング等でも十分活用可能であるとして、データ利活用の有用性も確認

■今後の予定

今回の実証実験から以下の更なる課題も浮上。これらの解決に向けた更なる検討や事業スキームの磨き上げを行い、サービスとしての実装を目指す。

- ⇒店舗側で混雑情報をリアルタイムに入力しデジタルサイネージ等で発信する仕組み「自動化」
- ⇒データ取得方法の精査による「システム運用コストの削減」